

参加会議・コース名称

Ice Core Analysis Techniques (ICAT) PhD school-2019 および 8th International Ice Drill Symposium

■ 派遣中の活動と成果

[派遣中の研究実施状況とその成果を記載してください。具体的な研究内容・方法・成果については、今後の自身の研究の推進を考慮の上、公開して差し支えない範囲に留めてください]

デンマーク・コペンハーゲンにおいて開催された Ice Core Analysis Techniques (ICAT) PhD school-2019 および 8th International Ice Drill Symposium に参加した。

Ice Core Analysis Techniques (ICAT) PhD school-2019 は 9 月 23 日 (月) から 9 月 28 日 (土) までの 6 日間にわたり、コペンハーゲン大学ニールス・ボーア研究所にて行われた。このスクールは次世代のアイスコア研究者育成のため、また将来行われるであろう協同研究の基盤を育むことを目的として開催された。世界各国の大学や研究機関から国籍も様々な大学院学生や博士研究員が 23 名参加した。講師は世界から集まったアイスコアに関連する研究者がつとめた。

ICAT PhD School ではアイスコアの研究史やコア掘削、アイスコアから読み取ることのできる気体成分やイオン濃度のデータについてなどの講義を受講した。基本的な知識から最新の分析法やフィールド調査に至るまで幅広い内容が扱われ、多くの知識を吸収することができた。また、座学だけではなく、コペンハーゲン大学の分析装置を見学したり、実際にデータを用いて解析をしたりする実習も行われた。講義や実習では自身の用いている分析装置についても扱われ、自身の研究に直結する知識も多く得られた。また、同じ分析法を扱う研究者や同世代の学生や博士研究員と知り合うことができたと同時に、講義の合間の時間などに質問や議論をする機会を得ることができた。これらは自身の分析技術の向上に大いに役立つものと考えられる。講義以外の時間においては参加者と話す機会が多くあり、互いの研究内容についてやこれまでに経験した研究活動について話すことで、より多くの情報を得ることができ、人的なネットワークも築くことができた。

9 月 30 日 (月) から 10 月 3 日 (木) にかけては The Royal Danish Academy of Sciences and Letters で行われた 8th International Ice Drill Symposium に参加した。このシンポジウムはアイスコアの掘削に関連する最先端の技術と知識の情報交換を目的としている。今回は世界各国から 93 名の研究者や技術者が集まり、様々な掘削技術の開発や各国の掘削の現状および計画などに関する発表が行われた。掘削手法の種類やドリルの構造などの技術的な知識を得ると同時に、各国の動向などを知る良い機会となった。また、参加した各国の研究者や技術者との会話からはフィールド活動での実体験など興味深い話を聞くことができた。

今回の派遣で参加した ICAT PhD School および 8th International Ice Drill Symposium ではアイスコアに関する様々な分野の知識を得るとともに、海外の研究者や博士課程の学生との幅広い人的ネットワークを構築することができた。これらは今後、自身が北極域グリーンランドアイスコアを分析し、研究を進める上で大変有意義なものとなった。

■ 派遣支援期間中の研究発表・受賞・アウトリーチ活動

[派遣中に学会等での研究発表・受賞・アウトリーチ活動があった場合、概要を記載してください。本若手派遣事業から旅費または参加費を支給したもの（科研費等、他の事業予算から経費を支出していないもの）が対象です]

該当なし。

※図表・写真等を含めて構いません。本様式を使用する場合は、分量の目安は1～2ページ程度です。